

The Delphion  
Integrated  
View

Other Views:  
[INPADOC](#) | [Derwent...](#)

Title: **JP10317439A2: MOUNTING STRUCTURE OF FAUCET, ETC.**

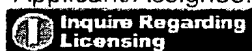
► [Want to see a more descriptive title highlighting what's new about this invention?](#)

Country: **JP** Japan

Kind: **A**

Inventor(s): **NAGATA MASAOKI**

Applicant/Assignee: **INAX CORP**



[News, Profiles, Stocks and More about this company](#)

Issued/Filed Dates: **Dec. 2, 1998 / May 23, 1997**

Application Number: **JP1997000133583**

IPC Class: **E03C 1/042; A47K 1/00;**

► [Interested in classification by use rather than just by description?](#)

Priority Number(s): May 23, 1997 **JP1997000133583**

Abstract: **Problem to be solved:** To provide a faucet mounting structure, by which a faucet can be fixed easily onto a counter and in which a member for installation is not conspicuous and which has extremely excellent appearance.



**Solution:** A pedestal member 80 is fixed beforehand onto a counter 1 by a washer 82 and a bolt 84, and the recessed section 88 of a faucet body 86 is fitted externally to the pedestal member 80. The faucet body 86 is fitted to the pedestal member 80 under the state, in which a leg section 92b is pulled into a window hole 100. A screw 90 is screwed into a female tapped hole 94 through an opening 112 and a through-port 96 by a driver. A cover ring 110 is turned at 180° in the faucet peripheral direction. Accordingly, the opening 112 and the head section 92a of an engaging member 92 are faced oppositely, and the head section 92a is penetrated into the opening 112. The leg section 92b is projected from the inner circumferential surface of the faucet body 86, and entered into a recessed section 106, and the faucet body 86 is fixed firmly onto the counter 1.  
COPYRIGHT: (C)1998,JPO

► [See a clear and precise summary of the whole patent, in understandable terms.](#)

Family: [Show known family members](#)

Other Abstract Info: DERABS G99-077110 DERG99-077110

Foreign References: No patents reference this one



Nominate this  
for the Gallery...

---

[Subscribe](#) | [Privacy Policy](#) | [Terms & Conditions](#) | [FAQ](#) | [Site Map](#) | [Help](#) | [Contact Us](#)

© 1997 - 2001 Delphion Inc.

【書類名】 刊行物等提出書  
【特許】 平10-317439(10.11.09)

【受付日】 平12.03.08

頁: 1/ 4

【書類名】 刊行物等提出書

【提出日】 平成12年3月7日

【あて先】 特許庁長官 殿

【事件の表示】

【出願番号】 平成10年特許願第317439号

【出願公開番号】 平成11年特許出願公開第217312号

【提出者】

【住所又は居所】 省略

【氏名又は名称】 省略

【提出する刊行物等】

特開昭56-97207号公報（刊行物1）

特開平2-258713号公報（刊行物2）

特開昭58-180408号公報（刊行物3）

実開昭54-56682号公報（実願昭52-129605号マイクロフィルム  
写）（刊行物4）

【提出の理由】

（1）本願発明の請求項1～4の発明は、刊行物1と、刊行物2，3または4に基づき当業者が容易に想到できたものであり、特許法第29条第2項の規定により拒絶されるべきものである。

以下その理由を詳しく述べる。

（2）特開平11-217312号公報（以下、本願発明という）の特許請求の範囲（平成11年4月5日付の補正後）に記載された発明を記載する。

「請求項1：

四級化したジアルキルアミノ基を有する（メタ）アクリル酸エステル又は（メタ）アクリルアミドを重合して得られるもの以外の塩生成基を有する高分子化合物を含有することを特徴とする鼻用角栓除去剤。

請求項2：

該高分子化合物が合成高分子であることを特徴とする請求項1記載の鼻用角栓除去剤。

請求項 3 :

塩生成基が、カルボキシ基、スルホン酸残基、硫酸残基、リン酸残基、硝酸残基、アミノ基及びアンモニウム基から選ばれる 1 種又は 2 種以上の基である請求項 1 記載の鼻用角栓除去剤。

請求項 4 :

四級化したジアルキルアミノ基を有する（メタ）アクリル酸エステル又は（メタ）アクリルアミドを重合して得られるもの以外の塩生成基を有する高分子化合物塩生成基を有する高分子化合物を含有する組成物を織布又はプラスチックシートに塗布したパップ剤を鼻に貼布し、乾燥後、皮膚から剥離して角栓を除去する方法。」である。

本願発明は、以上の構成をとることによって、「有効に角栓が除去され、毛孔の目立ちが抑えられ、毛孔内を清潔に保つことができ、更に皮膚を痛めることがない。」という効果を達成しうるものである。

(3) 各刊行物に記載された発明と本願発明との対比

本願発明の出願前に公開された刊行物 1（特開昭 56-97207 号公報）の特許請求の範囲（1）には、

「目と口の位置にミシン目を有し鼻の位置に切込線を設けた軟質の紙あるいは布に水溶性高分子材料中に溶解あるいは混合させたパック剤を含浸させた美顔パック」の発明が記載され、同刊行物 1 の第 5 欄 13 行～18 行目には、該美顔パックの使用方法として、「鼻の稜線部を目または口の部分から取り外したパックシート、あるいは別に設けた三角形のパックシートで被覆し、乾燥した後剥がす」と記載され、美顔パックとして鼻用美顔パックが記載されていることになる。

ところで、本願発明の親出願である特開平 5-97627 号（特願平 4-87033 号）の拒絶理由通知書（発送番号 125897）にて、審査官殿は、「パック化粧料そのものが皮膚表面の洗浄を企図したものであることを考慮に入れると、上記請求項に係る発明における角栓除去剤とは実質上区別ができない」と説示している。

従って、刊行物 1 に発明における水溶性高分子材料について、本願発明の塩生成基を有する水溶性高分子化合物を包含することは明らかであるものの、同刊行

物には水溶性高分子の具体的な記載がないが、同刊行物の発明は鼻用角栓除去剤の発明でもあることに相違はない。

一方、刊行物2（特開平2-258713号公報）の第1頁右欄2行～6行目、第2頁右下欄10行～第3頁左上欄8行目、実施例には、毛穴につまった角栓やよごれを取る皮膜形成型パック剤が記載され、その皮膜形成剤として、ポリアクリル酸、ポリアクリル酸ナトリウム等の塩生成基を有する水溶性高分子材料等が記載されている。

また、刊行物3（特開昭58-180408号公報）の特許請求の範囲には、ポリアクリル酸及び／又はポリアクリル酸塩（本願発明の塩生成基を有する高分子化合物に相当）が配合されたシート状パック剤の発明が記載され、同刊行物の第1頁左欄下から5行目～同頁右欄15行目には、従来のポリビニルアルコールなどの水溶性高分子を含む塗布型のパック剤は種々の欠点を有すると記載され、また同刊行物の第3頁左上欄4行～14行目には、該シート状パック剤は布、不織布、フィルム上にパック剤層を設けたものであり、顔面などに貼着し、又適応部位に応じて円形、角形の如きシート状物に打ち抜き加工を施してあると使用しやすいと記載され、本願発明の鼻の適用部位に応じて打ち抜くことが示唆されている。かつ、刊行物3の第3頁の左上欄下から2行～同頁右上欄4行目の記載から、該シート状パック料は皮膚の上で水分を蒸散させるものであり、乾燥してから剥離するものである。

さらに、刊行物4（実開昭54-56682号公報、実願昭52-129605号マイクロフィルム写）の実用新案登録請求の範囲には、紙、不織布、プラスチックフィルムの支持体にパック素材を塗布したパック剤の考案が記載され、同刊行物の第3頁16行～第4頁3行目には、パック素材としては従来公知のパック素材（第2頁4行～8行目の記載からポリビニルアルコール）よりポリアクリル酸塩（本願発明の塩生成基を有する高分子化合物に相当）が好適であると記載され、また同刊行物の第4頁18行～20行目にはパック剤は皮膚に貼付し易い形に裁断しておくのが好ましいと記載され、本願発明の鼻の適用部位に応じて裁断することが示唆されて、さらに該パック剤は皮膚に一定時間貼付し剥離するものであるから乾燥して使用するものである。。

従って、刊行物 2, 3 または 4 に記載されたポリアクリル酸、ポリアクリル酸塩の塩生成基を有する高分子化合物が配合されたパック料、またはシート状パック料を用いて、刊行物 1 に記載されたシート状鼻用角栓除去剤を作り、本願発明の請求項 1 ～ 4 記載の鼻用角栓剤とすることは当業者であれば全く容易に想到できたことである。

刊行物

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭56-97207

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 61 K 7/00

識別記号

庁内整理番号  
7432-4C

⑭ 公開 昭和56年(1981)8月5日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑮ 英語パツク

川口市川口4-11-2-206

⑯ 特 願 昭54-171435

⑰ 出 願 人 野崎祐宏

⑱ 出 願 昭54(1979)12月29日

川口市川口4-11-2-206

⑲ 発 明 者 野崎祐宏

⑳ 代 理 人 弁理士 市之瀬宮夫

(B)20000470027



1. 発明の名称

英語パツク

2. 特許請求の範囲

1. 目と口の位置にミシン目を有し鼻の位置に切込  
目を設けた軟質の紙あるいは布に水溶性高分子材  
質中に溶解あるいは混合させたパツク剤を含有さ  
せたことを特徴とする英語パツク。

2. 軟質の紙あるいは布の表面に水溶性高分子材  
質中にパツク剤を溶解あるいは混合させたパツク剤  
を設けた後、目と口の位置にミシン目、鼻の位置  
に切込目を設けたことを特徴とする英語パツク。

3. 特許請求の範囲第1項および第2項記載の英語  
パツクにおいて紙あるいは布の表面を不透透層で  
被覆したことを特徴とする英語パツク。

3. 発明の詳細な説明

本発明は英語パツクの改良に係るものであり、  
特に本発明は使用が容易でかつ英語作用の優れた  
シート状の英語パツクに係るものである。

従来一般に使用されている英語パツクは受紙剤  
となるビニール剤、即ち剤帯を水溶性高分子材  
質中に導入させ粘土状にしたパツク剤をチューブ等  
の容器に入れて市販されている。またこの英語パ  
ツクの使用方法は容器から取り出したパツク剤を  
目および口を貼いた紙全体に厚さが一層になるよ  
うに圧着しながら乾燥に送り、この乾燥したパ  
ツク剤が乾燥するまで紙にしわが出来ないように圧  
着しながら待つて水またはぬるま湯でこの乾燥し  
たパツク剤を洗い脱すか、あるいは乾燥して厚膜  
になったパツク剤を圧着しながら紙から剥がさ  
なければならなかった。またパツク剤の使用中には、  
ゆえにたいくともじつと乾燥して減量を要させ  
ていなければならない、また使用中に失敗者などが  
あつた場合両面にパツク剤を取り除くことが出来  
ない等の不都合な面を有していた。

本発明は上記事情を改善するためになされたら  
ので、その目的とするところは、パツク剤を全面  
に塗布する手間がなく、かつパツク剤後のパツク剤  
の脱い脱しあるいは剥離等の手間もなく、更に使

用中に発動等がある場合適宜に切り替えることができるシート状の発熱パックを提供することにある。

以下図面を用いて本発明の発熱パックの実施例を詳細に説明する。第1図は本発明の発熱パックの一実施例で(a)は平面図、(b)は(a)のA-A'方向断面図である。同図において上は発熱パックシート、11は目の位置に設けたミシン目、12は口の位置に設けたミシン目、13は鼻の位置に設けた逆T字形の切込部である。発熱パックシート上は透過性を有しかつ延縮性に優れたバック剤を保持し付けられる底あるいは布にバック剤を含有させたものである。またこの発熱パックシート上に用いられる布あるいは底としてはバック剤を充分含浸処理できるように厚さを有すると同時に延縮がよきかつ発熱パックシート上が皺面とびつたりせぬように軟質で、かつバック剤を含有させた後も不変に伸びてしぼくことのないような材質のものを使用することが望ましい。

一方この発熱パックシート上に含浸させるバック

3

剤を保持するための三角形のバックシートを別面に付けておいても良い。更にこの鼻の位置に設けた逆T字形の切込部13の代りに鼻が突出するように三角形の穴あるいは口ミシン目を設け、突出した鼻を保護するための三角形のバックシートを別面に付けておいても良い。

以上本発明の発熱パックの一実施例の構成を詳細に説明したが次に使用法を簡単に説明する。まずバックシート上の目と口の部分のミシン目に沿って穴を開けバックシート上を鼻に密着させる。この時目、鼻、口のそれぞれの位置にバックシート上の各位置がきちんと合うように注意しなければならない。次に鼻の切込部13から鼻出した鼻の先端部を目または口の部分から取り出したバックシート、あるいは別面に設けた三角形のバックシートで保護する。この状態でバックシート上に含浸されているバック剤が乾燥するまで待つて充分乾燥した後バックシート上を鼻から剥がす。なお、本発明の発熱パックは保存中にバック剤のバインダーとなる水溶性高分子の用液が凝縮するのを

5

1453656-97207(2)

バック剤はバックの目的に応じて炭素剤、ビタミン剤、滅菌剤等を水溶性高分子材料中に溶解あるいは混入させたものである。またこのバック剤は紙あるいは布に含浸されやすく、かつ底あるいは布中に保持し付けられるように適度な粘着を有していることが望ましい。次に目および口の位置に設けたミシン目11および12は本発明の発熱パックを使用する時に使用者が容易に取り除けるようにしたものでこのミシン目の形状は円形、方形、円形等全く限定するものでないことは言うまでもない。またこのミシン目11および12に使用者の目および口の大きさに応じて穴の大きさが調整できるようにミシン目を2重以上設けておいてもよい。次に鼻の位置に設けた逆T字形の切込部13はバックシートが鼻の先端に密着して居るように設けたものである。なおバックシート上を鼻に密着させた時この切込部13から鼻の先端部が露出してしまふので目あるいは口のミシン目11あるいは12に沿って取り出した部分をこの鼻の露出部に密着使用する。またバックシート上に鼻の

切込のためにプラスチックの袋あるいはアルミニウムコーティングの袋等に保存しておかなければならない。

第2図は本発明の発熱パックの他の実施例で断面図を示したものである。同図において2は底あるいは布から成る蓋層でこの蓋層となる底あるいは布の特性としては収縮で不変に伸びることのないようなものを用いる。また従来のバック剤と混合して用いる。3は蓋層2の上に設けたバック材で適々の目的に応じてバック剤を水溶性高分子材料中に溶解あるいは混合させたものである。なお本発明の発熱パックの形状は第1図の実施例と同様に目と口の位置にミシン目を設け鼻の位置に切込部を設けてある。また本発明の発熱パックは保存中にバック剤の水溶性高分子材料中に含まれる成分が凝縮するのを防ぐためにバック材3をプラスチックシート等で保護しておく必要がある。

第3図は本発明の他の実施例でバック剤が有効に皮膚に浸透するように第1図および第2図の発



特開2002-56-97207(2)

膜パックの背面を不透膜4で被覆したものである。

以上を要するに本発明は水溶性高分子材料中に溶解あるいは混入されたパック剤を収容の紙あるいは布に含浸あるいは塗布した浸透パックを提供するもので本発明の浸透パックを用いることによつて簡便にパックを効果良く行うことができる。

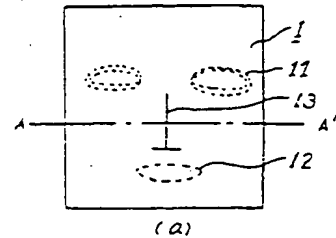
#### 4. 図面の簡単な説明

第1図、第2図、第3図は本発明の浸透パックの実施例を示したものである。

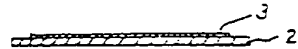
1…浸透パックシート、11、12…ミシン目、13…切込部、2…容器、3…パック剤、4…不透膜。

代理人 市之橋 啓

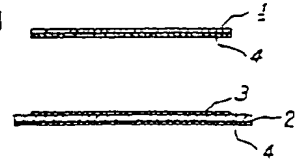
第1図



第2図



第3図



(B)20000470027



# 刊行物 4

⑩日本国特許庁(JP)

⑪実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報(U)

昭54-56682

⑬Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 61 K 7/00

⑭発明番号 ⑮日本分類  
31 B 0

⑯庁内整理番号 ⑰公開 昭和54年(1979)4月19日  
7432-4C

⑱発明名称 床敷材

(全 1 頁)

①バック材

富山市天正寺248番地

②実 際 昭52-125605

③出 願 人 リードケミカル株式会社

④出 願 昭52(1977)9月27日

富山市日保77番3

⑤考 案 者 斎藤雄

⑥代 理 人 弁護士 斎藤英 外1名

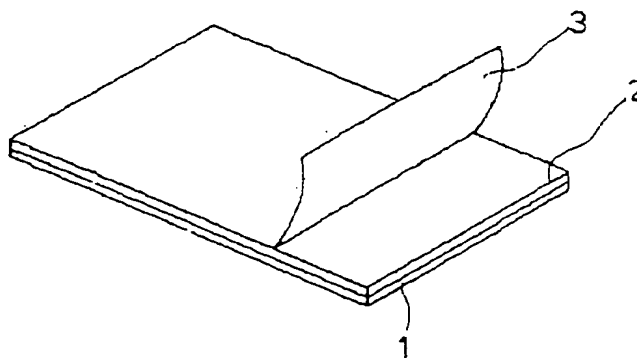
⑦実用新案登録請求の範囲

図面の簡単な説明

床、布、不織布、プラスチックフィルムまたはこれに類するもの等よりなる支持体の少くとも一面上にバック材を並布し、該バック材の表面を耐摩耗フィルムで被覆したことを特徴とするバック材。

図面は本発案の実施例を示す斜視図である。

図中、1………支持体、2………バック材、3………耐摩耗フィルム。



公開実用 昭和54—56682



(3,000円)

実用新案登録願

昭和 52 年 3 月 27 日

特許庁長官殿

1. 考案の名称 **ベックナ**
2. 考案者  
住所 **富山県富山市天正寺348番地**  
氏名 **源 政 雄**
3. 実用新案登録出願人

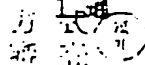
住所 **富山県富山市日保77番3**  
名称 **リードケイカル株式会社**  
代表者 **源 政 雄**

4. 代理人 (〒101)  
住所 **東京都千代田区神田駿河台1の6、主婦の友ビル**  
(電話 (291) 9721-4)  
氏名 **(6271) 栗 優 美**

(ほか 1 名)

5. 添付書類の目録

- |          |     |         |     |
|----------|-----|---------|-----|
| (1) 明細書  | 1 通 | (4) 委任状 | 1 通 |
| (2) 図面   | 1 通 | ( )     |     |
| (3) 願書副本 | 1 通 |         |     |



52 129508

明 細 書

1 考案の名称

バック剤

2 実用新案登録請求の範囲

- (1) 紙、布、不織布、プラスチックフィルムまたはこれに類するもの等よりなる支持体の少くとも一面上にバック素材を塗布し、該バック素材の表面を剝離用フィルムで被覆したことを特徴とするバック剤。

3 考案の詳細な説明

本考案は使用方法の簡便なバック剤に関する。

バック美容法は皮膚を一定時間皮膚で覆つて、その間に皮膚に栄養素と水分を補う一方、皮膚の血行を促して所定の栄養素の吸収を高めるマッサージ作用や皮脂腺、汗腺の機能を調節して皮膚になめらかさとうるおいを与える老化防止作用があると共に、バック剤をとり除く際皮膚面に付着した塵埃や皮膚面に分泌された老廃物を同時に取り去り、且つ老化した表皮の第一角

(1)

52-56582

## 公開実用 昭和54—56682

質層を取り除いて新しい表皮細胞の形成を促す新陳代謝促進作用をも期待できる効果的な美容法である。

従来この種目的のため市販されている多くのパック剤は、ポリビニルアルコール等の水溶性高分子物質の水溶液に保湿剤、増粘剤、アルコール、収れん剤、香料及び栄養素等を添加してなる液状のもので、使用に際しては該パック剤を一定の厚さに満遍なく肌に塗つて約20分間放置乾燥させた後、フィルム状になつた膜をはがす方法をとつている。しかしながらこのパック剤は、肌に塗り終るのに多くの時間を要し、しかも一定の厚さに満遍なく塗ることは、慣れた人でもかなり難しく、また乾燥を待つ20分間は顔の筋肉を動かさなければならぬと共にパック途中に茶客等で拭きとらざるを得ない場合には、また初めからやりなおす必要がありしかも短時間で乾燥させる必要があるため皮膚が弱い場合にはかえつて皮膚を痛めたりかぶれたりする欠点があつた。

本考案は上記欠点を解消しようとするもので、紙、布等よりなる支持体の少くとも一面上にバック素材を敷布し、該バック素材の表面を剝離用フィルムで被覆した使用方法の簡便なバック剤を提供するにある。

次に本考案の一実施例を図面に従って説明する。図は本考案のバック剤の斜視図を示すもので、支持体1と支持体1上面に一定の厚さに敷布したバック素材2と該バック素材2の表面を被覆した剝離用フィルム3とから構成されている。

支持体1としては、バック素材2を保持し得るものであるなら、布、紙、不織布、プラスチックフィルムまたはこれに類する布状のものを適宜使用することができる。

バック素材2としては、従来公知のバック素材を使用することもできるがポリアクリル酸塩、多価アルコールおよび水を主成分とするバック素材が、安定した保水性と保湿性とを有し、使用時間中適量の水分と保湿性とを保ち皮膚の血

公開実用 昭和54—56682

行を促進しパック素材に含まれる栄養素が充分に吸収され皮膚になめらかさとうるおいとを与えるのに好適である。しかも該パック剤はこれを剥離するとき皮膚を痛めることなく皮膚面の腐塊、分泌物をとり除くと共に表皮の老化した第一角質層をおだやかに剥離して新しい表皮細胞を形成させる効果もある。パック素材の組成の一例としては、ポリアクリル酸ナトリウム6部、グリセリン23部、カルボキシメチルセルロースナトリウム4部、メチルセルロース2部、ゼラチン3部、カオリン7部、クエン酸0.5部、アラントイン0.15部及び微量のビタミンA油と合計100部となる量の水からなる組成が挙げられる。

剥離用フィルム3としては、ポリエチレンフィルム、ポリプロピレンフィルムその他これに類するものを適宜使用することができる。

本考案のパック剤は所望の形状にすることができ、あらかじめ皮膚に貼付しやすい形に裁断しておくのが好ましい。

以上述べた如く本考案のバック剤は、使用者が剝離用フィルムをはがして一定時間皮膚面に貼付するだけでよいので使用が非常に簡便であり、バック途中で一時的にはがすことも可能であると共に、バック素材を一定の厚さに塗布することができる為、バック剤の厚さの相違による皮膚の局所的な引つ張り感がない等の利点を有する。

#### 4 図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示す斜視図である。

図中、

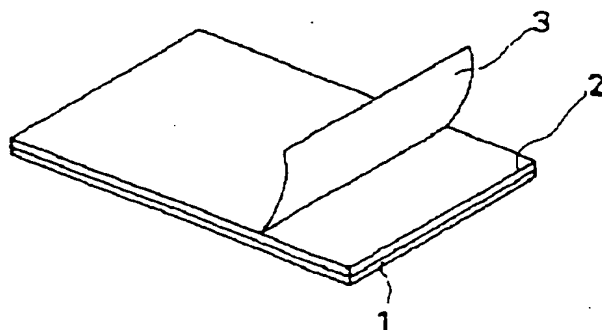
- 1 …… 支持体                      2 …… バック素材  
3 …… 剝離用フィルム

実用新案登録出願人      リードケミカル株式会社

代理人      弁理士      専                      優      美  
(ほか1名)



公開実用 昭和54—56682



56682

代理人 粵 俊美外 1名

[書類名] 添付書類  
[特許] 平10-317439(10.11.09)

[受付日] 平12.03.08

頁: 9/ 9

6 前記以外の代理人

住所 東京都千代田区神田駿河台1の6

主婦の友ビル

氏名 (6861) 専 経 夫